

# EWA 社 Blackhawk BH560U+L TI 社 Code Composer Studio 用ドライバ インストールガイド **イーサネット編**

第 8 版 2009.10



**ROINOS** **複製禁止**

株式会社 ロイノス DSP 開発ツール

Tel 053-762-3681 Fax 053-762-3682

URL : [www.roinos.com](http://www.roinos.com) Email : [tool@roinos.com](mailto:tool@roinos.com)

## 目次

1. まえがき .....	1	9.1 GEL の利用 (CCS Ver3.x 対応のため) ...	7
2. システム要件 .....	1	9.2 DSK 用のパッチ .....	7
3. 取り扱い上の注意事項と保証期間 .....	1	9.3 マルチコアプロセッサについて (CCS Ver2.2) .....	7
4. 梱包内容 .....	2	9.4 マルチプロセッシング .....	7
5. Code Composer Studio インストール .....	2	9.5 マルチコアプロセッサについて (CCS Ver3.3,3.1) .....	7
6. デバイスドライバのインストール .....	2	10. 機器の接続 .....	7
7. Blackhawk560U+L のインストール(USB) .....	2	11. Setup CCS .....	8
8. セットアッププログラム .....	3	11.1 CCS Setup Ver3.3 の例 .....	8
8.1 デバイスドライバのインストール .....	3	11.2 CCS Ver3.1 の場合 .....	9
8.2 ネットワークファイルのインストール .....	3	11.3 CCS Setup Ver2.x,3.0 の例 .....	9
8.3 IP アドレスの変更 .....	3	11.4 CCS Ver3. x の場合 .....	11
8.4 ネットワークカードの IP アドレス設定 .....	3	11.5 CCS Setup の import で設定をする方法 (CCS Ver3.3 の例) .....	11
8.5 ネットワーク接続と接続の確認 .....	5		
8.6 ネットワークサービスの開始 .....	6		
9. CCS セットアップに関する役立つ知識 .....	7		

11.6 CCS Setup の import で設定をする方法 (Ver2.2,3.0 の例).....	12	15.1 エミュレータのリセット .....	27
<b>12. 汎用的ボードの具体的設定(CCS3.3 の例)...</b>	<b>13</b>	<b>16. 故障対応.....</b>	<b>28</b>
12.1 DSK C6713 の場合 .....	13		
12.2 DSK C6416 の場合 .....	13		
12.3 EVM DM642 の場合 .....	14		
12.4 EVM 6201 / 6701 の場合 .....	15		
12.5 DSK C5416 の場合 .....	16		
12.6 DSK C5510 の場合 .....	16		
12.7 SR-MK2 の場合 .....	17		
12.8 eZdspF2812 の場合 .....	17		
12.9 eZdspF2808 の場合 .....	17		
12.10 eZdspLF2407A の場合 .....	18		
12.11 eZdspF28335 の場合 .....	18		
12.12 OMAP5912 OSK の場合 .....	18		
12.13 EVM DM6437 の場合 .....	19		
12.14 DSK C6455 の場合 .....	20		
12.15 EVM DM6446 の場合 .....	20		
12.16 C672x の場合(EVM 6727 の例).....	21		
12.17 EVM DM355 の場合 .....	21		
12.18 OMAP3530 の場合 .....	22		
<b>13. 汎用的ボードの具体的設定(CCS3.1 の例)...</b>	<b>23</b>		
13.1 DSK C6713 の場合 .....	23		
13.2 DSK C6416 の場合 .....	23		
13.3 EVM DM642 の場合 .....	23		
13.4 EVM 6201 / 6701 の場合 .....	23		
13.5 DSK C5416 の場合 .....	23		
13.6 DSK C5510 の場合 .....	23		
13.7 eZdspF2812 の場合 .....	23		
13.8 eZdspF2808 の場合 .....	23		
13.9 eZdspLF2407A の場合 .....	23		
13.10 OMAP5912 OSK の場合 .....	23		
13.11 EVM DM6437 の場合 .....	23		
13.12 C672x の場合(EVM 6727 の例).....	24		
<b>14. 汎用的ボードの具体的設定(CCS2.x,3.0 の例)24</b>			
14.1 DSK C6713 の場合 .....	24		
14.2 DSK C6416 の場合 .....	24		
14.3. DSK C5416 の場合 .....	25		
14.4 DSK C5510 の場合 .....	25		
14.5 eZdsp F2812 の場合 .....	25		
14.6 eZdsp LF2407 の場合 .....	25		
14.7 OMAP5912 OSK ターゲットの場合 .....	26		
<b>15. 補足説明 .....</b>	<b>27</b>		

## 1. まえがき

EWA 社エミュレーションシステムとテキサス・インスツルメンツ社 Code Composer Studio を組み合わせて使用することで実機のエミュレーションを行うことができます。テキサス・インスツルメンツ社の TMS320 ファミリーをサポートしています。

システムの特徴は次の通りです。

- ▲ C6000,C5000,C2000,OMAP,DaVinci の JTAG ファミリーのエミュレーション。
- ▲ USB 1.0, 1.1 , USB2.0 ポートあるいはイーサネットポートでの使用
- ▲ 1V から 5V までのターゲット I/O 電圧に自動対応
- ▲ 最適な JTAG クロック周波数の自動選択

本書では Code Composer Studio を CCS、テキサス・インスツルメンツ社を TI と称する場合があります。

## 2. システム要件

本書は、EWA 社のエミュレータ Blackhawk560U+L と TI の CCS、JTAG 接続の DSP ターゲットボードを使用する方を主な対象とし、Blackhawk560U+L をイーサネットで接続して使用する方法についてご説明します。ホストパソコンに必要な条件は次の通りです。

- ▲ CCS Ver2.2 以降

**注意** CCS をご使用になる際、CCS のアップデートアドバイザー機能を利用して、最新の修正パッチを入手できるようにしておいてください。ロイノスでも CCS のアップデートの販売を承っておりますのでご利用下さい。

- ▲ Windows xp/2000

LAN 経由で使用する場合には Windows Me や 98 は原則としてご使用になれません。

- ▲ USB 1.0, 1.1 , USB2.0 ポート 1 個

少なくとも初期設定を行う PC には USB が必要で

- ▲ イーサネットポート 1 個

## 3. 取り扱い上の注意事項と保証期間

製品は、実用性を踏まえつつ設計されておりますが、機構上長期間に渡る機械的負荷で損傷を受ける個所がございます。製品を長期にわたって安心してお使いいただけますよう、製品には**機械的衝撃を与えない、ケーブル部に機械的応力(張力、荷重、ねじれ力)をかけない**ようお願いいたします。

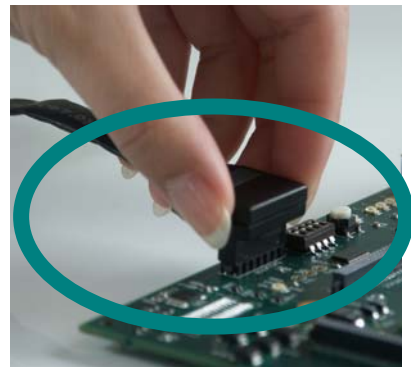
ターゲットの電源とホスト PC の電源はできるだけ近くからとり、フレームグラウンドの電位差が発生しないよう

にしてください。電位差がある状態で JTAG の端子を挿抜しますと、機器が破壊されるおそれがあります。また、大電流を扱う機器、力率の悪い機器と AC を共用する環境では、フレームグラウンドの電位差による**循環電流を流さない**ようにホストパソコンとターゲットボードのグラウンドは**POD とは別に導線で常時接続**することをお勧めします。

また、製品の保証期間は一年間で、その期間内に正常な使用状況において故障した場合には修理は無償です。その期間を過ぎた場合には有償の修理となります。

製品の構造上、JTAG コネクタの部分の接続が割と弱く、コネクタの挿抜の際にケーブルを引っ張るとコネクタ内部で接触不良が起き、CCS の動作が不安定となります。

**かならず JTAG コネクタのシェルをつまみはずすようにしてください。**



(写真は Blackhawk560U+L ではございません)

## AC アダプタについて

**AC アダプタは必ず付属のものを使用して下さい。**とくに、パソコン用など、5V を超える電圧を供給する AC アダプタを接続するとほぼ確実に機器を破損し、有償修理となりますのでご注意ください。

## 4. 梱包内容

製品の箱の中に以下のものがあることをお確かめください。

- (1) マニュアル 本書(USB編とイーサネット編)および英語のマニュアル
- (2) ドライバ CD (メーカー提供)



- (3) エミュレータ本体と USB ケーブル、LAN ケーブル



- (4) JTAG ケーブル

本体にすでにとりつけられています。1.27mm ピッチ 20 ピンの形態となっています。2.54mm ピッチの JTAG コネクタを採用したターゲットボードに接続するには付属のアダプタが必要です。

- (5) TI 2.54mm ピッチ 14 ピン用アダプタ。

従来から用いられてきた 2.54mm ピッチのターゲットに接続するために JTAG ケーブルの先端に追加するものです。



- (6) ARM 2.54mm ピッチ 20 ピン用アダプタ

ARM ピン配置のターゲットに接続するために JTAG ケーブルの先端に追加します。OMAP や DaVinci の ARM 部を CCS でデバッグできます。



- (7) TI 60 ピントレースコネクタ用アダプタ

DaVinci テクノロジーなどのデバイスで用意されるトレース用のコネクタに変換するためのものです。

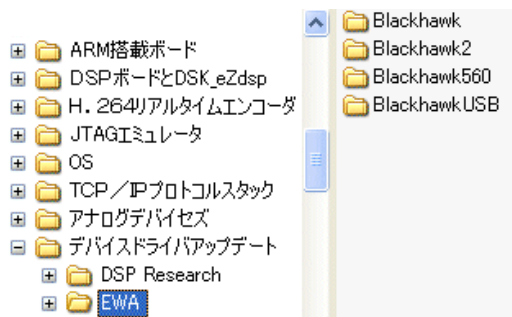
- (8) AC アダプタと電源ケーブル

- (9) ロイノス編集 CD

場合によってデバイスドライバの修正版などのファイルをご提供する場合があります。



2009年9月現在の最新のドライバが入っています。



## 5. Code Composer Studio インストール

CCS をインストールしていない場合はインストールして下さい。CCS をすでにインストールしている場合、本章は読み飛ばしてください。

詳細は インストールマニュアルの「USB 編」をご覧ください。

## 6. デバイスドライバのインストール

Windows が Blackhawk560U+L を認識するためのドライバ、SetupCCS で使用するドライバ、その他のユーティリティやデータをハードディスクにインストールします。

インストールマニュアルの「USB 編の 6 章」に従い作業をしてください。USB の接続用ですで行った場合には LAN 接続用に新たに同じことをする必要はありません。

## 7. Blackhawk560U+L のインストール(USB)

OS がデバイスを認識するためのデバイスドライバを読み込ませます。LAN で接続する場合、最終的には必ずしも USB の接続は必要ではありません。ただし、Blackhawk560U+L 本体の IP アドレスを USB 経由で変更できるのですが、これを行う場合には、PC に認識させる必要があります。

詳細はマニュアルの「USB 編」をご覧ください。